

42 バザー等貴施設が主体となって行っている行事に、貴施設のある地域の住民を招待していますか。

- 1 招待している 2 招待していない

43 貴施設がある地域の住民に対して、施設の開放を行っていますか。

- 1 開放している 2 開放していない(設問「45」へ)

44 上記設問で「1 開放している」と記入された施設にうかがいます。
どのような開放の仕方をしていますか。

- 1 毎日開放している
2 常時ではないが、曜日や日にちを決めるなどして、定期的に開放している
3 施設行事のときや、地域住民から依頼があったときに限って、開放している

45 関係機関との定期的な連絡会を開催していますか。

- 1 開催している 2 開催していない(設問「51」へ)

46 上記設問で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で開催していますか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- 1 1か月に一回以上実施している 2 3か月に一回以上実施している 3 半年に一回以上実施している
4 1年に一回以上実施している 5 いずれにもあてはまらない

47 設問「45」で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
1回の平均開催時間はどのくらいですか。

- 1 1時間以内 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満 4 3時間以上

48 設問「45」で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
最も多く使用される連絡会開催場所はどこですか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- 1 貴施設 2 福祉事務所 3 婦人相談所 4 母子生活支援施設
5 福祉事務所や婦人相談所以外の社会福祉行政機関
6 母子生活支援施設以外の社会福祉施設
7 保健所等社会福祉領域外の専門機関・施設
8 市民センターのような一般住民に開放されている場所
9 特定できない
10 その他()

49 設問「45」で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
連絡会に基本的に出席することを職務としている職種がありますか。

- 1 ある 2 ない(設問「51」へ)

50 上記設問で「1 ある」と記入された施設にうかがいます。
どのような職種の業務となっていますか。あてはまるものすべてを選び、()に○をご記入ください。

- 50-01 施設長 ()
50-02 指導員 ()
50-03 その他 () → 職種名()

51 関係機関との定期的な事例検討会を開催していますか。

1 開催している 2 開催していない(設問「55」へ)

52 上記設問で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で開催していますか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

1 1か月に一回以上実施している 2 3か月に一回以上実施している 3 半年に一回以上実施している
4 1年に一回以上実施している 5 いずれにもあてはまらない

53 設問「51」で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
1回の平均開催時間はどのくらいですか。

1 1時間以内 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満 4 3時間以上

54 設問「51」で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
最も多く使用される検討会開催場所はどこですか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

1 貴施設 2 福祉事務所 3 婦人相談所 4 母子生活支援施設
5 福祉事務所や婦人相談所以外の社会福祉行政機関
6 母子生活支援施設以外の社会福祉施設
7 保健所等社会福祉領域外の専門機関・施設
8 市民センターのような一般住民に開放されている場所
9 特定できない
10 その他()

55 ボランティアの受入を行っていますか。

1 受け入れている 2 受け入れていない(設問「61」へ)

56 上記設問で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
利用者にボランティアの受入について説明していますか。

1 説明している 2 説明していない

57 設問「55」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
ボランティアの受入にかかる担当者を配置していますか。

1 配置している 2 配置していない

58 設問「55」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
平成13年度におけるボランティア受入人数(延べ)についてご記入ください。

() 名

59 設問「55」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
ボランティアに対する研修を実施していますか。

1 実施している 2 実施していない(設問「61」へ)

60 上記設問で「1 実施している」と記入された施設にうかがいます。
研修はどのように実施していますか。

1 必ず研修を受けさせている 2 必要に応じて研修を受けさせている

- 61 実習生の受入を行っていますか。
- 1 受け入れている 2 受け入れていない(設問「68」へ)
- ↓
- 62 上記設問で「1 受け入れている」と記入された施設へうかがいます。
利用者に実習生の受入について説明していますか。
- 1 説明している 2 説明していない
- 63 設問「61」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
実習生受入にかかる担当者を配置していますか。
- 1 配置している 2 配置していない
- 64 設問「61」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
平成13年度における実習生受入人数(延べ)についてご記入ください。
- () 名
- 65 設問「61」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
実習生との反省会を行っていますか。以下の選択肢からあてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。
- 1 必ず行っている 2 必要に応じて行っている(設問「67」へ) 3 行っていない(設問「67」へ)
- ↓
- 66 上記設問で「1 必ず行っている」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で行っていますか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。
- 1 実習中毎日実施している
2 毎日ではないが、数日おきには行うようにしている
3 実習の中間と最後に実施している
4 実習の最後に実施している
- 67 設問「61」で「1 受け入れている」と記入された施設にうかがいます。
実習生の学校(大学、専門学校)の教員による巡回指導にどのように対応していますか。
- 1 実習指導担当者が必ず指導場面に同席するようにしている
2 実習指導担当者が必要に応じて指導場面に同席するようにしている
3 実習指導担当者が指導場面に同席することはない

73 利用者への援助を展開する際、連携をとりたいにもかかわらず、うまく連携をとれない機関はありますか。あてはまるものすべての番号に○をしてください

- | | | | |
|--------------------|------------|-----------------|-----------|
| 1 福祉事務所 | 2 婦人相談所 | 3 配偶者暴力相談支援センター | 4 公共職業安定所 |
| 5 婦人・母子相談員 | 6 母子生活支援施設 | 7 児童家庭支援センター | 8 民生・児童委員 |
| 9 病院・医療機関 | 10 保健所 | 11 弁護士 | 12 警察 |
| 13 その他() | | | |
| 14 他機関と連携をとったことがない | | | |

74 利用者についての自立支援計画を策定していますか。

- 1 すべての利用者について策定している 2 一部の利用者について策定している
3 策定していない(設問「80」へ)

75 上記設問で「1 すべての利用者について策定している」「2 一部の利用者について策定している」と記入された施設にうかがいます。
自立支援計画の見直しを行っていますか。

- 1 見直しを行っている 2 見直しを行っていない(設問「77」へ)

76 上記設問で「1 見直しを行っている」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で見直しをしていますか。

- 1 半年以内に見直している 2 半年～1年以内に見直している

77 設問「74」で「1 すべての利用者について策定している」「2 一部の利用者について策定している」と記入された施設にうかがいます。
自立支援計画の策定の際、福祉事務所や婦人相談所と連携していますか。
あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 必ず福祉事務所および婦人相談所と連携して策定している | |
| 2 必要に応じて福祉事務所および婦人相談所と連携して策定している | |
| 3 必ず福祉事務所とは連携して策定している | 4 必要に応じて福祉事務所とは連携して策定している |
| 5 必ず婦人相談所とは連携して策定している | 6 必要に応じて婦人相談所とは連携して策定している |
| 7 施設職員だけで策定している | |

78 設問「74」で「1 すべての利用者について策定している」「2 一部の利用者について策定している」と記入された施設にうかがいます。
自立支援計画の策定の際に利用者の参加を保障していますか。

- 1 何らかの形で保障している 2 保障していない

79 設問「74」で「1 すべての利用者について策定している」「2 一部の利用者について策定している」と記入された施設にうかがいます。
利用者の自立支援計画の達成度等に関する評価について、客観的な判断基準を持っていますか。

- 1 持っている 2 持っていない

80 利用者とその家族からの苦情を解決するための委員会を定期的に開催していますか。

- 1 開催している 2 必要に応じて不定期に開催している(設問「82」へ)
3 開催していない(設問「83」へ)

81 上記設問で「1 開催している」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で開催していますか。あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- 1 1か月に一回以上実施している 2 3か月に一回以上実施している 3 半年に一回以上実施している
4 1年に一回以上実施している 5 いずれにもあてはまらない

82 設問「80」で「1 開催している」「2 必要に応じて不定期に開催している」と記入された施設にうかがいます。
苦情解決のための委員会に第三者委員を選任していますか。

- 1 選任している 2 選任していない

83 施設の自己評価を実施していますか。

- 1 実施している 2 実施していない

VI そのほか、サービス内容に関わることについてうかがいます。

84 退所者の同窓会を開いていますか。

- 1 開いている 2 開いていない(設問「86」へ)

85 上記設問で「1 開いている」と記入された施設にうかがいます。
どの程度の頻度で開いていますか。

- 1 半年に1回以上開いている 2 1年に1回以上開いている 3 不定期に開いている

86 退所者のための出張について、平均的に見てどの程度行っていますか。
あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- 1 1週間に1回以上の頻度で出張している 2 1か月に2～3回の頻度で出張している
3 1か月に1回程度の頻度で出張している 4 半年に2～3回の頻度で出張している
5 半年に1回程度の頻度で出張している 6 1年に1回程度の頻度で出張している
7 いずれにもあてはまらない

87 心理療法を担当する職員を配置することの効果について、どのようにお考えですか。
あてはまるものを一つ選び、番号に○をしてください。

- 1 大いにある 2 ある 3 どちらともいえない 4 あまりない 5 まったくない
6 いずれにもあてはまらない(配置していない)

- 88 主たる入所理由が「DV」であって、自立に到ったケース1例について、さしつかえない範囲で、以下の内容についてご記入ください。(別紙添付でもかまいません)

【入所理由】

【入所前の家族構成】

【入所に到るまでの生活歴】

【施設における援助の経過】

【福祉事務所との連携】

【福祉事務所以外に活用した社会資源】

【退所後の家族構成および生活状況】

【うまく援助が進んだ理由・自立がうまくいった理由】

【その他】

- 89 婦人保護施設において、DVを受けた利用者への援助を行う際の課題等について、ご自由にご記入ください。

ご協力まことにありがとうございました。

平成14年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

被虐待児童の保護者への指導法の開発に関する研究

主任研究者：庄司順一

分担研究報告書

虐待に対する援助のフォーマット作成に関する研究

分担研究者：武藤 安子（横浜国立大学教授）

研究協力者：信田さよ子（原宿おゆりリングセンター所長）

同 同：春原 由紀（武蔵野大学教授）

同 同：土屋 明美（日本心理劇協会会長・相州病院）

研究要旨

虐待問題への介入方法、とりわけ被虐待児童の保護者への対応が緊急課題であるという認識から、顕在化した危機例のみならず、表面化していないケースやリスク・ファクターを有しているケースの保護者に対する援助、そして親子関係を含む家族関係の構築を視野に入れた対策も広く関心がもたれてきている。虐待問題のうち、顕在化し、あるいは明らか客観性を有するものへの緊急対応とともに、それとは異なる視点でアプローチしていくことの重要性を提起することを目的としている。しかし、それは隠された虐待という客観的事実を発見したり、早期に発見しあるいは防止することをめざすことを意味するものではない。

本研究は、二つの報告からなる。研究1は、カウンセリングに来談した1173ケースの主訴と被虐待経験との関係に関する調査研究である。被虐待経験が人生の長いプロセスにおいて大きな影響を与えることは従来からいわれてきている。虐待は意図的発見者が不在の場合、その子どもが成長して自らの記憶、経験が虐待という文脈で語られることでしか表面化しない。しかも被虐待経験は、成人してまったく別の問題の背景として初めて語られることで浮上する。1173ケースの分析により、虐待問題を考えるとき、現在的・現実的な視点とともに、過去のあるいは事後的な視点、さらに親子のみならず家庭内暴力という包括的視点が必要とされるという大きな示唆が得られた。

上記調査においても、最初から虐待を主訴として相談にくるケースはきわめて少ないが、虐待という言葉が多くの人に共有される時代となり、カウンセリングなど臨床的アプローチが強く要請されているにもかかわらず、虐待の問題に取り組んだ個別ケース、集団的アプローチを用いたケースの視点は浮遊している。研究2は、自らそれと表出して支援を求めて訪れた、わが子への虐待に悩む親（母親）たちとの1年余にわたるグループアプローチの実践経過と、そのグループのプロセス分析に関する報告である。貴重な臨床データから、被虐待児童の保護者への対応についての基礎的な臨床知見が得られたと考える。

＜研究1＞

カウンセリングの来談者と被虐待経験に関する調査研究

信田さよ子

春原 由紀

（原宿カウンセリングセンター所長）

（武蔵野大学教授）

1. 研究の意義および目的

従来の子ども虐待（以後虐待と略す）に関する調査/研究は幼児とその親を対象としたものが多かった。つまり現在進行中の虐待に関するものがほとんどだといってよい。

しかし、本調査研究は民間の相談機関である原宿カウンセリングセンターに来所したクライアントを対象としている。つまりそのひとたちが虐待経験をもつとしても、その多くは虐待を過去の経験として記憶しているのであって、現在自分の家族において虐待が進行しているわけではない。またそのひとたちが被虐待経験を有したのは20年以上前のことである。今日のように虐待という言葉が多くの人に共有されている時代ではなく、それらのほとんどは、しつけ、体罰、折檻などという親の子育て行為の一環として行われていたということであろう。子どもだったそのひとたちは、親が「しつけ」といえばそう信じて生きてきたのである。しかし記憶は消えず、その親の行為を何と名づけていいのかもわからず成人した。名づける言葉が無いとき、それを語ることはできないだろう。そのひとたちが虐待という言葉を手にいれたとき、初めてそれを虐待と自ら名づけ、語ることができるようになったのである。

このように他者から見て明らかに虐待とわかる虐待はごく一部であり、多くの子どもは親の行為を受けながらもそれを虐待と認知することなく、あたりまえのことと感じつつ成長していくのである。たまたまその子どもが体力がなかったり、打ち所が悪く死にいたり、また受傷した場合は客観性を与えられ虐待と認知される。ところが子どもが元気でその環境によく適応して成長した場合は、客観的事実として被虐待経験が表面化することはない。しかし、その影響は当然のことであるが、深くその人生に及んでいる。

虐待は意図的発見者が不在の場合、その子ど

もが成長して自らの記憶、経験が虐待という文脈で語られることでしか表面化しないということである。また被虐待経験は、成人してまったく別の問題の背景として初めて語られることで浮上する。それはカウンセラーとの共同作業にもひとしい。語ることを虐待として構築することを支え、肯定してくれる存在があって、その人たちの被虐待経験は言語化されるのである。

被虐待経験が人生の長いプロセスにおいて大きな影響を与えることは従来からいわれてきている。虐待とは多くは過ぎ去ってしまっただけから問題が発生することでもある。その意味で、虐待問題を考えるとき、現在のより、過去のあるいは事後的な視点が必要とされるのである。

虐待のうち、先述のように明らかな客観性が有するものはごく一部であることを前提としたい。つまり虐待かどうかは事後的に当事者である子どもだったひと、本人が決めることなのである。隠された虐待という客観的事実を発見するのではないことを本研究の基本姿勢とする。子どもの立場に立つという基本的立場を守ること、それは子どもの主観こそが判断の基本であるということである。あたかも基準があってそれに照らし合わせて虐待を判定するのではなく、子どもの主観と自らを重ね合わせるという立場性が必要とされる。

本研究はそのようなクライアントの経験という主観に沿うというカウンセラーの姿勢があって始めて可能であったといえる。これは研究の客観性を否定するものでなく、臨床という活動における主観性、対象の立場に立つという姿勢そのものを提起するものである。

そこに本研究の意義があり、本研究を通してその一端を明らかにしたい。

2. 研究方法

調査の対象は、2000年度および2001年度に原宿カウンセリングセンターを訪れたクライアントのうちカウンセラーの協力を得られた1173ケースである。担当したカウンセラー(10名)にカウンセリングの記録を元に、本研究のため作成した所定の調査票(資料1参照)に答えてもらった。調査期間は、2002年11月から2003年1月である。

3. 結果と考察

1) 調査の概観

(1)対象となった1173ケースのうち、性別未記入の10ケース(0.8%)を除いて、男性は217ケース(18.6%)、女性は946ケース(80.6%)であった。

(2)来談ケースは、問題を感じている本人がクライアントとして来談するケース(以下<本人ケース>とする)と、IP(問題当事者)の家族がクライアントとして来談するケース(以下<家族ケース>とする)とに分かれる。来談ケースの内訳は、<本人ケース>が、745ケース(64.9%)、<家族のケース>が403ケース(34.9%)、<その他>(友人・恋人など)7ケース(0.6%)である。

(3)クライアントの年齢分布を図1に示した。20代、30代の群と40代以降の群とに分かれている。前者は、本人ケースの来談が多く、後者は家族ケースが多いことが特徴的である。

(4)クライアント全体の主訴は、図2-1に示したようになっている(複数回答)。また、<本人ケース>の主訴と<家族ケース>の主訴は、図2-2、図2-3のようである。

尚、主訴分類のALは、アルコールの略であり飲酒問題をさす。また、EDは、イーティングディスオーダーの略で摂食障害、ACは、アダルトチルドレンという自己認知に関する問題、DVは、ドメスティックバイオレンスの被害問題をさしている。

(5)当センターは多様な対象別グループアプローチの実践(資料2参照)を特質としているが、本調査対象のケースのそれへの参加は235ケース(20%)であった。

2) 「虐待」との関連

(1)被虐待体験の有無について

被虐待体験の有無についての結果を図3-1に示した。全クライアント中331ケース(31.3%)に被虐待経験がみられた。また、<本人ケース>745ケースに限ってみると、被虐待体験のあるものは、287ケースであり、38.5%にあたる。これは、周囲との虐待的な関係において生きてきたひとが、成人した後、周囲との関係において生きにくさを感じる割合が高いことを示唆している。被虐待体験の有無の判断は、カウンセラーがカウンセリング継続中に、クライアントに被虐待体験ありと判断したものである。

(2)カウンセラーが被虐待体験ありと判断したきっかけについて自由記述をしてもらった例を挙げる(表1)。記述例は、カウンセラーが、クライアントの被虐待体験を疑うきっかけとなった発言を拾ったものであり、重なる表現のものを排した。これはあくまで、判断のきっかけであり、その後のカウンセリングの展開の方向性において、その体験に焦点化したかどうかを示すものではない。

(3)カウンセリングの展開において、それらを「被虐待体験」としてカウンセラーとクライアントが共有したケースは50.6%、しなかったものが32.9%、(残り16.5%不明)であった。被虐待体験をカウンセラーと共有するという方法は、現在の生きづらさは、虐待を受けてきた状況において適応するために学習してきた行動及びかわりのパターンの結果であるという現状の共通認識のもとにカウンセリングを展開することにより、クライアントにサバイバーとしての自己認知が生まれ、回復を図ることができるという臨床的意義があると考えられる。これは、勿論、すべてのケースに適応すべきとはいえない。そうした方法が適しているかどうかの判断もカウンセラーの役割にある。

(4)被虐待体験を有するケースの中で、「虐待」の分類を行った結果を図3-2に示した(複数回答)。

身体的虐待：148ケース(44.7%)

心理的虐待：218ケース(65.9%)

ネグレクト：57ケース(17.2%)

性的虐待 : 50ケース (15.1%)

(5)虐待を受けていた時期に関して集計を行った結果を、図4-1、4-2、4-3、4-4に示した。虐待者に関しては、表2-1、2-2、2-3、2-4に示した。(4)および(5)の結果から次のようなことが推測された。

①身体的虐待について

(ア)虐待者は、父親によるものが多い。これは、一般に、虐待が母子関係の中で語られることの多い状況において、見過ごされている大きな問題を示唆しているように思われる。

(イ)被害の時期は、幼児期・学童期に多いが、高校以降にもみられる。これは、幼児期・学童期からの暴力の継続(アディクション化)が推測される。

②心理的虐待について

(ア)虐待者は、母親によるもの、両親からのものが多く、報告ケース数の多いことを見ると、言葉の暴力による傷つきは、外側からは客観的にはとらえにくい、成長過程に多大な影響を及ぼしていることがわかる。

(イ)被害の時期は、幼児期から高校以降に至るまで長期にわたっている。

③ネグレクトについて

(ア)虐待者は、両親の割合が高い。

(イ)被害の時期は、幼児期・学童期に多く、中学高校期になると、子どもの生活力の増加から減少している。

④性的虐待について

(ア)虐待者は、父親・兄など家族や親類(叔父等)など、いわゆる身内に多いことは明らかである。しかし、近所の人や、従業員などの他人からの被害も多いこと、また、複数の加害者からの被害も多いことが明らかにされた。

(イ)被害の時期は、学童期に多く見られるが、幼児期・中学・高校においても被害を受けている。

3) 主訴と被虐待体験との関係

虐待を受けながら育つということが被虐待者にどのような生きづらさを生み、カウンセリングの現場に反映されているかを明らかにするために、来談主訴と被虐待体験との関係について検討した。

被虐待体験のあるケースの主訴(＜本人ケース＞のみ)は図5に示した通りであるが、被虐待体験と主訴とのクロス集計を行い表3に整理した。さらに被虐待体験と主訴との相関を求めたものが表4である。

これらの結果から、被虐待体験は、主訴としてAC(アダルトチルドレン)との相関が最も高く、親子関係とも高い相関を示していることが明らかとなった。また、虐待(子どもを虐待してしまう)や、DV(ドメスティックバイオレンスの被害者)については、本調査におけるケース数が少ないため、相関があるとは言いきれないが、その傾向があることが示唆された。これらから、被虐待体験が、成人した後も家族の諸関係の困難につながっていくことが推測できる。

4) 被虐待体験と親の問題との関係

ここでは、本人ケースの親の問題と、被虐待体験の関係について検討してみる。親の生きづらさが子どもへの虐待という形につながるのではないかとの仮説から、＜本人ケース＞における親の問題として次の7項目－a. 親の嗜癖問題 b. 祖父母の嗜癖問題 c. 父から母への暴力 d. 両親の不和 e. 両親の離婚 f. 経済的不安 g. 精神疾患－を挙げ集計した結果を図6に示した。これらの項目と被虐待体験との関係をさぐるために相関を求め、その結果を表5に示した。

これらの結果から、被虐待体験は、両親の不和、親の嗜癖問題、父親から母親への暴力、祖父母の嗜癖問題など、親の問題と何らかの関係があることが明らかになった。

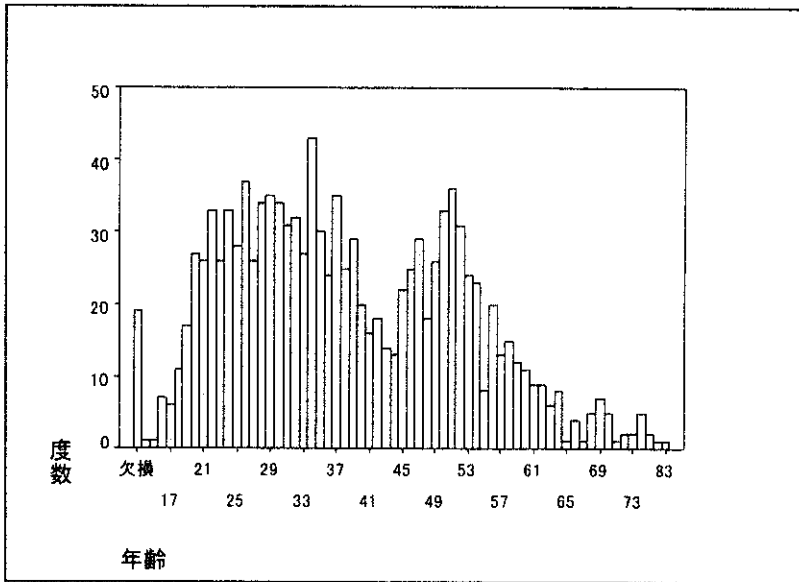


図1 クライアントの年齢(全体)

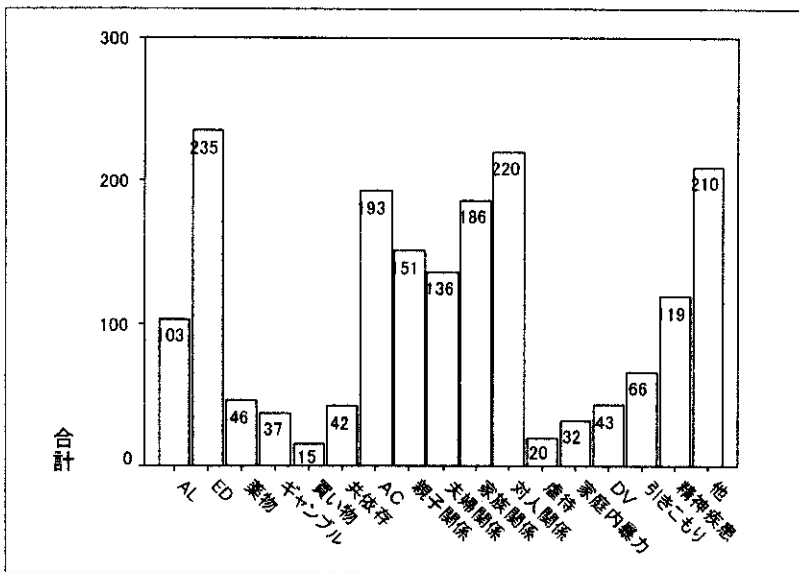


図2-1 クライアントの主訴

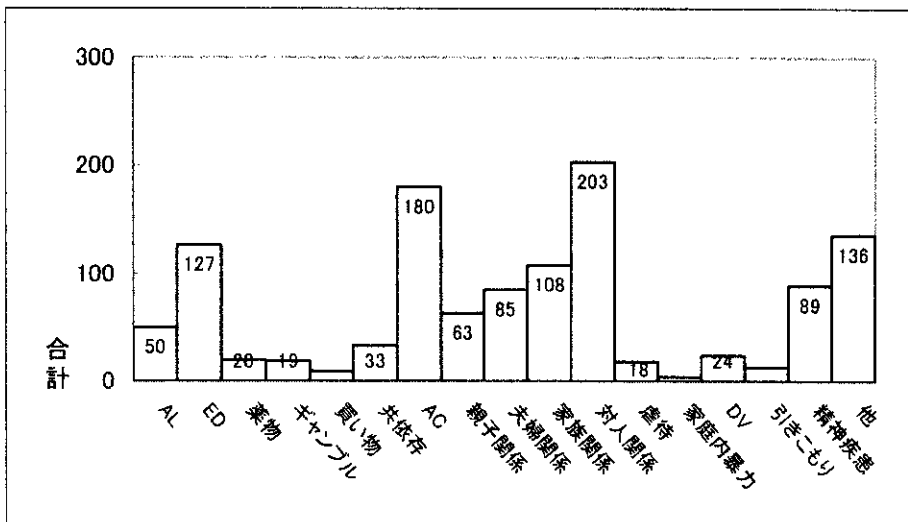


図2-2 <本人ケース>の主訴

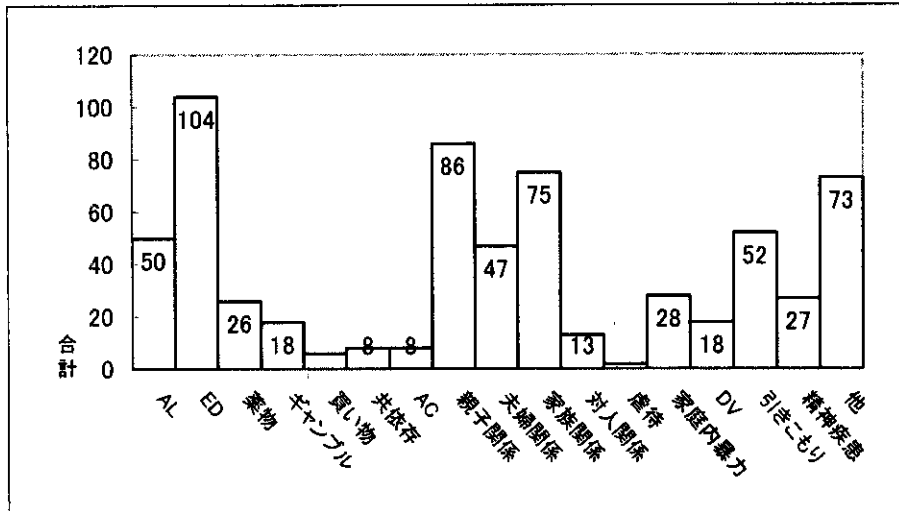


図2-3 <家族ケース>の主訴

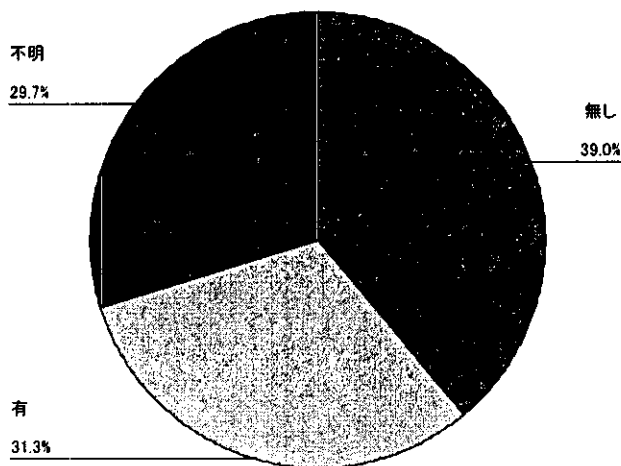


図3-1 被虐待体験(全体)

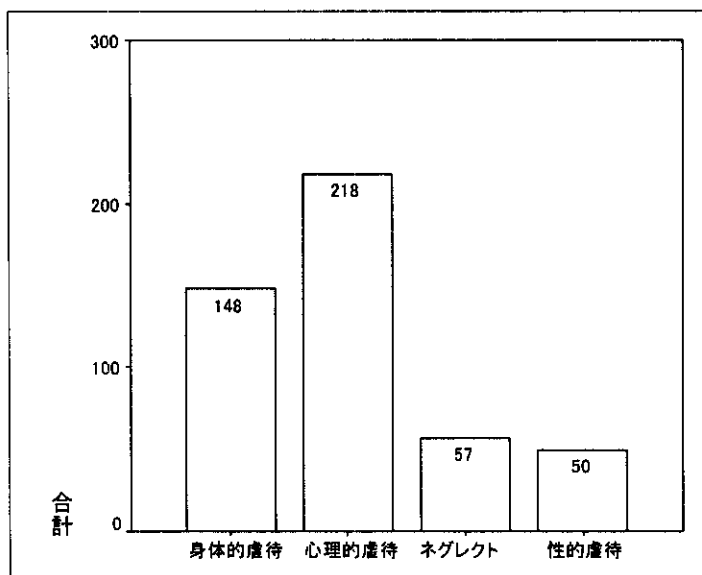


図3-2 虐待の種類

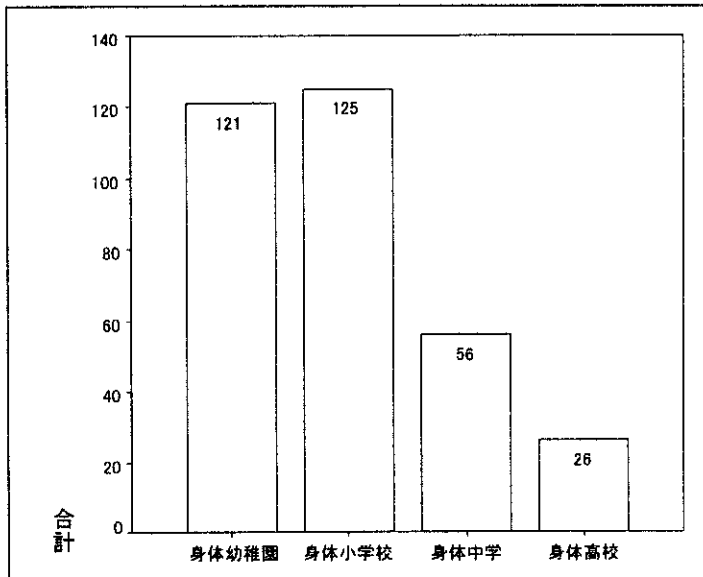


図4-1 身体的虐待を受けていた時期

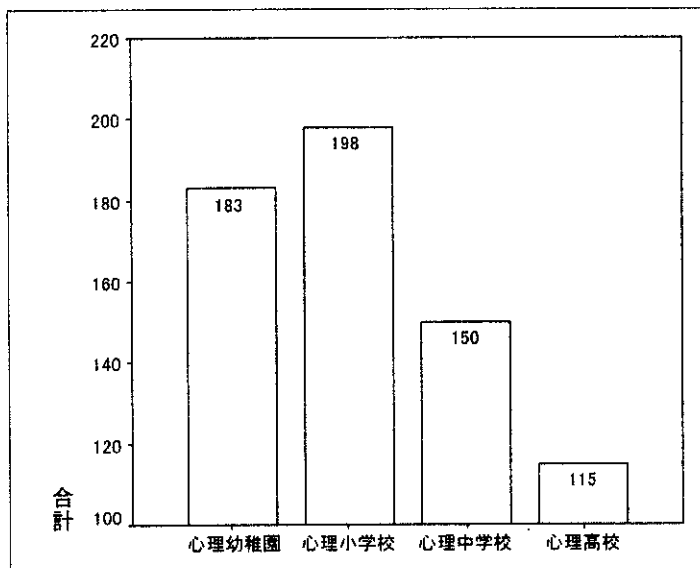


図4-2 心理的虐待を受けていた時期

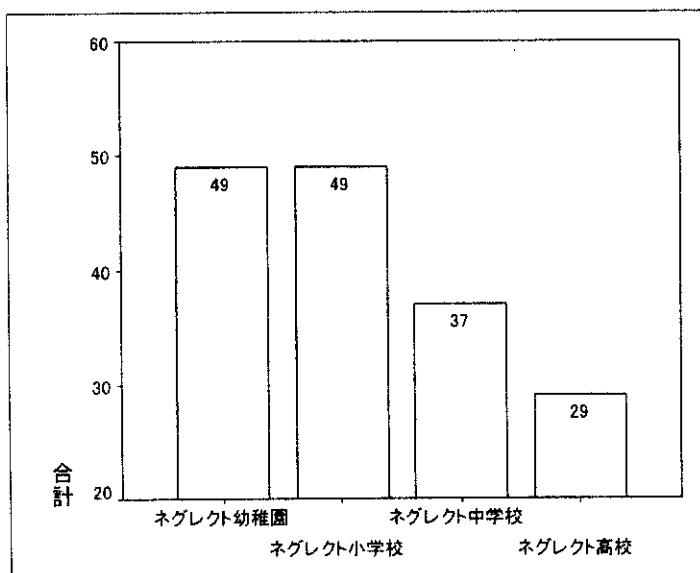


図4-3 ネグレクトを受けていた時期

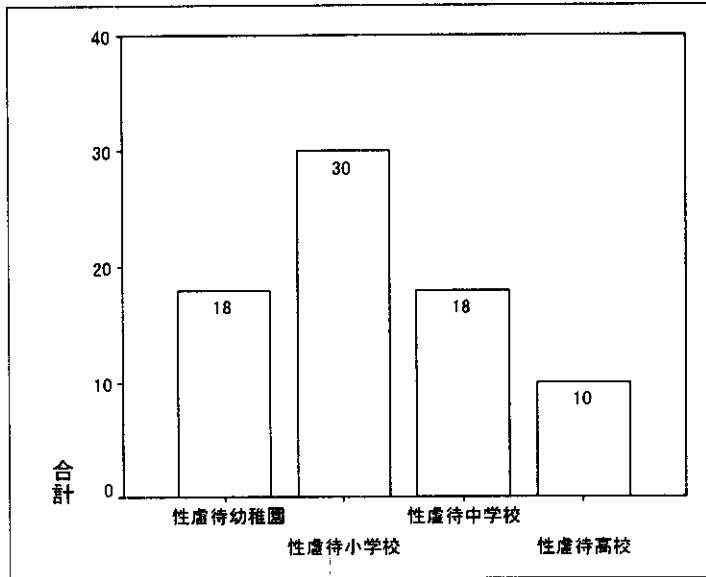


図4-4 性的虐待を受けていた時期

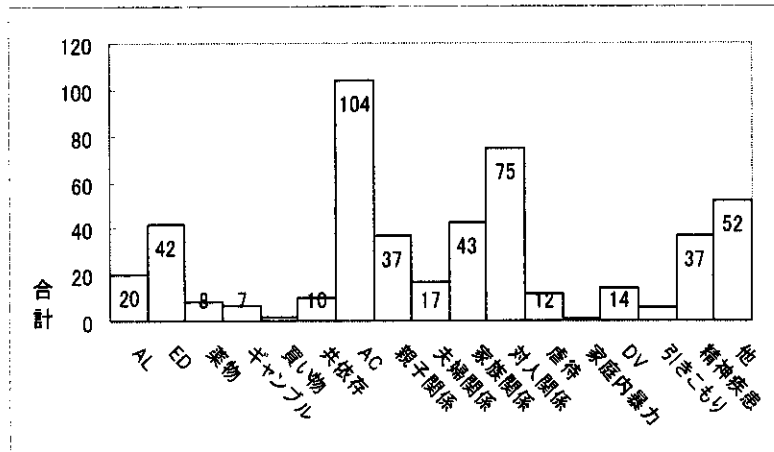


図5 被虐待体験と主訴<本人ケース>

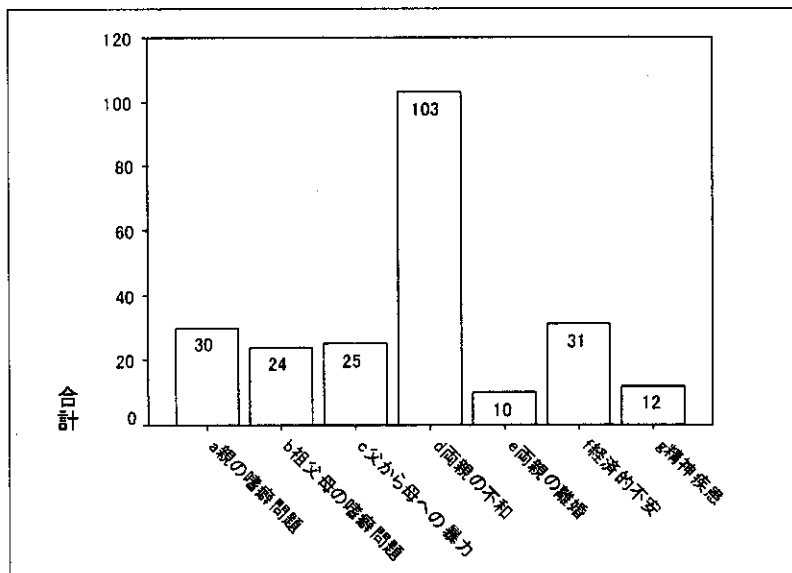


図6 クライエントの親の問題

表1 被虐待体験に気づききっかけの発言

<p>身体的虐待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALを飲んだ父が自分に当たった ・父からの暴力、CLがかわいがってるネコにも暴力、ネコ鼻血 ・CLは覚えていないがおばから手足を縛られていたと聞いていたことから ・インテイク時、切れる父のはなし ・兄に殴られていた ・姉よりひんぱんに殴られる、親はかばわず ・おきゅう、蔵にとじこめなどでしつけ ・帯に巻かれて押入れに入れられた ・親に叩かれて育った ・親の暴力、父が刃物を持ち出す ・しばられて蔵に閉じ込められる ・喘息発作のたびに殴られた ・祖父が体罰、CLは逃げ回っていた ・父からかなづちで殴られた、母から醜いといわれ続けた。 ・父から殴る、蹴るの暴力 ・父からの身体的、兄からの身体的暴力の両方 ・父からの暴力、畳に包丁を突き刺す ・何にでも口をだしてきて、殴ったりけったりされていた ・熱湯かけられてやけど ・母が馬乗りになって、線香を背中におしつけられる ・母から殴られたり蹴られたりしていた ・母から訳も分からずたたかれた ・母の布団に丸められしばられ ・母にバットでぶたれたとの発言 ・酔った父が大声で追いかけてきた ・父がアルコール依存者で家中を破壊した、母へのDV、CLもなぐられて育つ
<p>心理的虐待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CLが口答えすると容易に食事を抜かれた、あるいは脅されていた、話しかけても無視 ・CLは家族からいらぬ子という処遇 ・CLは小さいときからずっといじめられてきた ・あんたなんか生まれてくるはずじゃなかった等の暴言 ・あんたは～する資格はないと常に言われていた ・親からの見捨てられ体験、最初は母、次は父、祖父母からの扱い ・親のしたこと、普通じゃないくらいひどかった ・感情の起伏の激しい母のはげ口となる ・宗教をおしつけられ拘束され続けた、父からダメなやつといわれ、体罰もあった ・父のAL、母のヒステリックな感情の受け手 ・父は不在、母は祖父母にあずけた、口うるさい、無視された ・母がお前なんか生まれてこなければよかったといった ・母が支配的で金でひとをしぼり暴言をはいていた ・母からの否定的な言葉、みにくいアヒルの子など ・母より悪魔といわれた ・容姿をほめない教育方針
<p>ネグレクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳ぐらいで親が蒸発、一時一人でくらしていた ・親の養育能力がなく、ずっと放って置かれた ・実父と離別後、母は水商売でいつも不在 ・小さい頃母と二人暮らし、母が夜も働いて放って置かれた ・母と祖母のいがみ合いでCLは全く放って置かれた ・全くかまわれず放って置かれた
<p>性的虐待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兄がお風呂に入ってきてその後覚えていないとのことから ・おじからの性的虐待を語る ・小学校の時の性被害を直接語られた ・性虐待、親からの無視 ・父が性的なビデオを見せたり触ったりした ・父からセクシャルアビューズを受けたとの発言 ・父からキスされたり、風呂を覗かれたりした ・同居中のおじから胸をさわられ、風呂に入ってこられた ・母の方針で生理中でも父と入浴させられた
<p>暴力の目撃</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・父から母へのひどい暴力の目撃 ・父がALをのみ、姉妹に暴力、母にも暴力を振るっていた ・父が大暴れしたとき、きょうだい3人で布団に包まって泣いていたことを思い出すということから ・父が母に刃物を向ける、殴る ・父の暴力を泣きながら見ている子だった

表2-1 虐待者①身体的虐待

	度 数
父 親	57
母 親	41
両 親	20
兄	9
姉	3
父親と兄	3
義 母	2
祖 父	1
母親と兄	1
母親と祖母	1
養 母	1
両親と義父	1
両親と兄	1
両親と父方のおば	1

表2-2 ②心理的虐待

	度 数
母 親	94
両 親	59
父 親	37
義 母	4
姉	3
養 母	2
兄	1
祖父母	1
父親と兄	1
母親と姉	1
母親と祖父	1
母親と祖母	1
両親と兄	1
両親と祖父母	1
両親と祖母	1

表2-3 ③ネグレクト

	度 数
両 親	26
母 親	17
父 親	10
義 母	2
養父母	1

表2-4 ④性的虐待

	度 数
父 親	14
兄	4
いとこ	2
義 兄	2
義 父	2
親戚の叔父	2
母 親	2
叔父といとこ	1
異父兄と義父の兄	1
兄といとこ	1
親 戚	1
養 父	1
母のパートナー	1
両 親	1
近所の人	3
知らない人	2
個人教授	1
Drと知らない人	1
チンピラ	1
教 師	1
使用人と教師	1
高校生(他人)	1
男 性	1
父の会社の使用人	1

表3 主訴と被虐待体験

主訴と被虐待体験 クロス集計表

主訴			被虐待体験			合計
			無	有	その他	
AL	無	度数	383	302	385	1070
		ALの%	35.8%	28.2%	36.0%	100.0%
	有	度数	29	29	45	103
		ALの%	28.2%	28.2%	43.7%	100.0%
ED	無	度数	312	284	342	938
		EDの%	33.3%	30.3%	36.5%	100.0%
	有	度数	100	47	88	235
		EDの%	42.6%	20.0%	37.4%	100.0%
薬物	無	度数	398	318	411	1127
		薬物の%	35.3%	28.2%	36.5%	100.0%
	有	度数	14	13	19	46
		薬物の%	30.4%	28.3%	41.3%	100.0%
ギャンブル	無	度数	399	324	413	1136
		ギャンブルの%	35.1%	28.5%	36.4%	100.0%
	有	度数	13	7	17	37
		ギャンブルの%	35.1%	18.9%	45.9%	100.0%
買い物	無	度数	404	328	426	1158
		買い物の%	34.9%	28.3%	36.8%	100.0%
	有	度数	8	3	4	15
		買い物の%	53.3%	20.0%	26.7%	100.0%
共依存	無	度数	391	320	420	1131
		共依存の%	34.6%	28.3%	37.1%	100.0%
	有	度数	21	11	10	42
		共依存の%	50.0%	26.2%	23.8%	100.0%
AC	無	度数	355	223	402	980
		ACの%	36.2%	22.8%	41.0%	100.0%
	有	度数	57	108	28	193
		ACの%	29.5%	56.0%	14.5%	100.0%
親子関係	無	度数	354	283	385	1022
		親子関係の%	34.6%	27.7%	37.7%	100.0%
	有	度数	58	48	45	151
		親子関係の%	38.4%	31.8%	29.8%	100.0%
夫婦関係	無	度数	356	306	375	1037
		夫婦関係の%	34.3%	29.5%	36.2%	100.0%
	有	度数	56	25	55	136
		夫婦関係の%	41.2%	18.4%	40.4%	100.0%
家族関係	無	度数	334	276	377	987
		家族関係の%	33.8%	28.0%	38.2%	100.0%
	有	度数	78	55	53	186
		家族関係の%	41.9%	29.6%	28.5%	100.0%
対人関係	無	度数	342	255	356	953
		対人関係の%	35.9%	26.8%	37.4%	100.0%
	有	度数	70	76	74	220
		対人関係の%	31.8%	34.5%	33.6%	100.0%
虐待	無	度数	408	318	427	1153
		虐待の%	35.4%	27.6%	37.0%	100.0%
	有	度数	4	13	3	20
		虐待の%	20.0%	65.0%	15.0%	100.0%
家庭内暴力	無	度数	402	325	414	1141
		家庭内暴力の%	35.2%	28.5%	36.3%	100.0%
	有	度数	10	6	16	32
		家庭内暴力の%	31.3%	18.8%	50.0%	100.0%
DV	無	度数	403	310	417	1130
		DVの%	35.7%	27.4%	36.9%	100.0%
	有	度数	9	21	13	43
		DVの%	20.9%	48.8%	30.2%	100.0%
引きこもり	無	度数	384	321	402	1107
		引きこもりの%	34.7%	29.0%	36.3%	100.0%
	有	度数	28	10	28	66
		引きこもりの%	42.4%	15.2%	42.4%	100.0%
精神疾患	無	度数	373	295	386	1054
		精神疾患の%	35.4%	28.0%	36.6%	100.0%
	有	度数	39	36	44	119
		精神疾患の%	32.8%	30.3%	37.0%	100.0%
その他	無	度数	341	268	354	963
		その他の%	35.4%	27.8%	36.8%	100.0%
	有	度数	71	63	76	210
		その他の%	33.8%	30.0%	36.2%	100.0%
合計		度数	412	331	430	1173

表4 主訴と虐待体験の相関

主訴	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1) AL	—																	
2) ED	.064	—																
3) 薬物	.155***	.035	—															
4) ギャンブル	.025	-.051	-.027	—														
5) 買い物	.069	.015	.058	-.018	—													
6) 共依存	.047	-.046	.045	.007	-.024	—												
7) AC	-.039	-.189***	-.016	.008	-.062	.138**	—											
8) 親子関係	.034	.003	.009	-.019	.011	.028	.110**	—										
9) 夫婦関係	.039	-.095**	.019	.022	.038	.046	-.074*	-.003	—									
10) 家族関係	.027	-.045	.002	.030	-.046	-.015	-.081*	-.016	-.028	—								
11) 対人関係	-.116**	-.109**	-.008	-.061	-.040	-.015	-.106**	-.013	-.172***	.022	—							
12) 虐待	-.007	.022	-.026	-.025	-.017	-.034	-.007	.078*	-.001	.010	.002	—						
13) 家庭内暴力	-.020	.016	-.012	-.012	-.008	-.016	.001	.044	-.026	-.030	-.004	-.012	—					
14) DV	.073*	-.062	.017	.067	-.020	.035	.021	-.001	.102**	-.010	-.026	.120**	-.013	—				
15) 引きこもり	.005	-.006	-.022	-.022	-.015	-.029	-.003	.033	-.016	.032	.057	-.021	-.010	.034	—			
16) 精神疾患	-.033	-.046	-.061	-.033	-.003	-.039	-.034	.022	-.028	-.058	.016	.050	.086*	.027	-.017	—		
17) 他	-.030	-.122**	-.014	-.076*	-.020	-.068	-.153**	-.031	-.104**	-.007	-.039	-.052	.108**	-.047	.017	-.003	—	
18) 虐待体験	.005	-.092*	.001	.016	-.042	-.050	.168**	.126**	-.145**	-.022	.014	.077	-.004	.079	-.010	.006	.015	—

***p<.001, **p<.01, *p<.05

表5 親の問題と虐待体験相関

親の問題	1	2	3	4	5	6	7	8
1) 親の嗜癮問題	—							
2) 祖父母の嗜癮問題	.667***	—						
3) 父から母への暴力	.596***	.397***	—					
4) 両親の不和	.490***	.400***	.428***	—				
5) 両親の離婚	.207***	.151*	.250***	.238***	—			
6) 経済的不安	.263***	.202**	.245***	.228***	.463***	—		
7) 精神疾患	.078	.068	.115*	.130*	.111*	.023	—	
8) 虐待体験	.405***	.333***	.370***	.426***	.132**	.157**	.157**	—

***p<.001, **p<.01, *p<.05

資料1 調査票

以下のケースについてお答えください。		担当者	
ケース番号	氏名	男	女 (才)
① 主訴：インテーク時CLが提示した問題 嗜癖……… AL ED 薬物 ギャンブル 買物 共依存 人間関係… AC 親子関係 夫婦関係 家族関係 対人関係 暴力……… 虐待 家庭内暴力(思春期暴力) DV その他……… ひきこもり 精神疾患 () その他 ()			
② クライアント： 本人 家族 () 未婚 既婚 離婚歴 有 無 子ども (人)			
③ 虐待のからむケースか否か		YES	NO
④ 相談継続期間			
a. 個別相談期間 ()		終結	中断 継続中
b. グループ参加 (グループ名)		クール数 ()	
終結 中断 継続中			
⑤ クライアントについて			
a. 被虐待体験(COの判断)		有	無 不明
b. 虐待の目撃体験		有	無
c. COが虐待と認知したきっかけ ()			
d. 「虐待」をCLと共有したか否か		YES	NO
e. 虐待の分類		虐待者	虐待を受けた時期
1.身体的 ()		(幼 小 中 高)	
2.心理的 ()		(幼 小 中 高)	
3.ネグレクト ()		(幼 小 中 高)	
4.性的 ()		(幼 小 中 高)	
e. クライアント自身の子どもへの虐待			
(COの判断)		有	無 不明
(CLの認知)		有	無 不明
⑥ クライアント自身の親について			
a. 親の嗜癖問題		有	無 不明
b. 祖父母の嗜癖問題		有	無 不明
c. 父から母への暴力		有	無 不明
d. 両親の不和		有	無 不明
e. 両親の離婚		有	無 不明
f. 経済的不安		有	無 不明
g. 精神疾患		有	無 不明
⑥ コメント ()			
ご協力ありがとうございました			